第18回日本食海外普及功労者表彰 受賞者ビデオメッセージ

加納・マリア・アレハンドラ氏

まず初めに、このような表彰をいただいたことに深く御礼申し上げます。私の家族は、1966年からアルゼンチンで、日本の美食文化に関わる仕事に携わってきました。この素晴らしい分野に最初に身を投じたのは祖父母でした。そして私の両親がその跡を継いで30年ほど前にレストラン「いちそう」を創業し、今は私が、伝統と家族の遺産を引き継いで続けています。

ここアルゼンチンでは、日本の文化はいつも好意的に受け入れられてきました。そして、日本食も、少しずつアルゼンチンの食卓の主役の座を占めるようになってきました。90年代の寿司ブームから始まり、その後、アニメの到来とともに、ラーメンやおにぎりが登場しました。

2018年に、何人かの同業者から、アルゼンチンでの日本食の普及のために力を結集して方法を探そう、という呼びかけを受けました。ここからガストロ・ハポ協会が生まれ、現在では日本の美食文化を追求する60社以上の会員が参加しています。この協会は、我が国における日本食の普及を目的とする非営利団体です。

在アルゼンチン日本大使館のご協力のおかげで、2019年に最初の「ガストロ・ハポ・フードウィーク」を開催することができました。これは、私たちの料理を知っていただくために、50社以上のベンチャー企業が特別メニューを提供する1週間です。現在までに6回を数えました。私たちの料理を紹介するだけでなく、食事をする時の習慣についても知っていただくために、毎回テーマと名称を決めています。

「乾杯」「いただきます」「いらっしゃいませ」「おかわり」「おいしい」「御馳走さま」。これが、今までの各回の名称です。

また、毎回メインディッシュも選びます。ストリートフードから、和菓子、お弁当、カレーなどです。そして、日本食のことだけではなく、日本料理に伴う哲学についても語ります。つまり、旬の食材を使うこと、健康的でバランスの良い食生活の推進、そして私たちを取り巻く環境に責任と自覚を持つことの重要性です。

今年、「ガストロ・ハポ・フードウィーク」は、ブエノスアイレス市議会から文化事業の認定を受けました。これは、6年前から私たちが続けてきたチームワークが、大きな実を結んだことを示しています。

この歴史の一端を担えたことを、たいへん幸運に思っております。

最後に、料理という好きな仕事を通して日本文化を広めることに長年にわたって力を尽くしてきた仲間たちを代表して、今回の受賞をたいへん嬉しく思っておりますことを申し上げて、お礼のご挨拶とさせていただきます。どうも有難うございました。